



TITLE:

# <巻頭言>研究科の組織再編のなか で

AUTHOR(S):

稲垣, 恭子

---

CITATION:

稲垣, 恭子. <巻頭言>研究科の組織再編のなかで. 京都大学大学院教育学  
研究科附属臨床教育実践研究センター紀要 2018, 21: 1-2

ISSUE DATE:

2018-03-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/230329>

RIGHT:

## 研究科の組織再編のなかで

稲 垣 恭 子

教育学研究科は、大学院を中心とした組織再編によって、平成 30 年度からこれまでの 2 専攻（教育科学専攻、臨床教育学専攻）を 1 専攻に統合し、「教育学環専攻 (interdisciplinary studies in Education)」として新しくスタートすることになった。専攻名に「環」が入るのは全国でもこれがはじめての試みである。この「教育学環専攻」という名称には、これまでの研究科の蓄積を土台として、科学知と実践知を繋ぎ、研究・教育・社会貢献の間をスパイラルに往還する新しい知（「フロネシス（実践的叡智）」の拠点形成という意味がこめられている。

研究、教育、実践の相互連環、あるいは科学知と実践知の融合というコンセプトは、まさに臨床の各講座と臨床教育実践研究センターが実践してきたことであり、それ自体は特段に目新しいわけではないかもしれない。今回の研究科の組織再編が目指しているのは、これまでとはまったく異なる方向に舵を切るというのではなく、むしろ研究科全体が共通の基盤としてきたことをより明確に意識し、研究科内の他の専門分野や京大内の他研究科・センターとの柔軟で融合的な連携や、グローバルな視野にたった研究・教育を展開していくことである。

具体的な研究組織としては、これまでの 2 専攻 11 講座から 1 専攻 5 講座（教育・人間科学講座、教育認知心理学講座、臨床心理学講座、教育社会学講座、連携教育学講座）になり、これまで以上に柔軟な相互連環ができる融合的組織になる。また大学院生は、各講座の下に設けられた 9 つのコース（教育哲学、教育史学、教育方法学・発達科学、臨床教育学、教育認知心理学、臨床心理学、教育文化学、比較教育政策学、高等教育学、臨床実践指導者養成（博士後期課程のみ））に所属して、専門分野を深く修めると同時に、講座間を柔軟に横断する広い視野で教育・研究を進めることができる体制になる。さらに、文・理の枠を超えたプロジェクトやグローバルな視野にたった研究や教育を進めていくためのリエゾン部門として「グローバル教育展開オフィス」を新たに設置している。

この新しい組織体制のなかで、大学院のカリキュラムも刷新するべく準備を進めている。各専門分野を横断する「大学院共通科目」や、「国際合同授業」「国際インターンシップ」「国際フィールドワーク」などの科目を新たに開講することによって、領域横断的でグローバルな視野の研究・教育を後押ししたいと考えている。

また、心理学関連では、公認心理師資格がスタートするのに対応して、新たな科目が設置される予定である。そのなかには他研究科との連携が必要な科目もかなり含まれており、これを機に、心理学を軸としながら社会福祉学や医学、社会学などの関連分野とのより広がりのあるネットワークが形成される

ことも期待される。

組織再編やカリキュラム再編には、研究・教育の新しい方向や展開の可能性が開かれる一方で、盛りだくさんになりすぎてかえって方向性を見失ってしまう危険も伴う。研究型大学としてのプログラムと資格プログラムとのバランスという問題もある。研究科全体の再編によって、臨床心理学の将来をあらためて見直す機会になればと思う。